

chapter

1

中型獣類の被害対策の考え方



中型獣類の被害対策の考え方

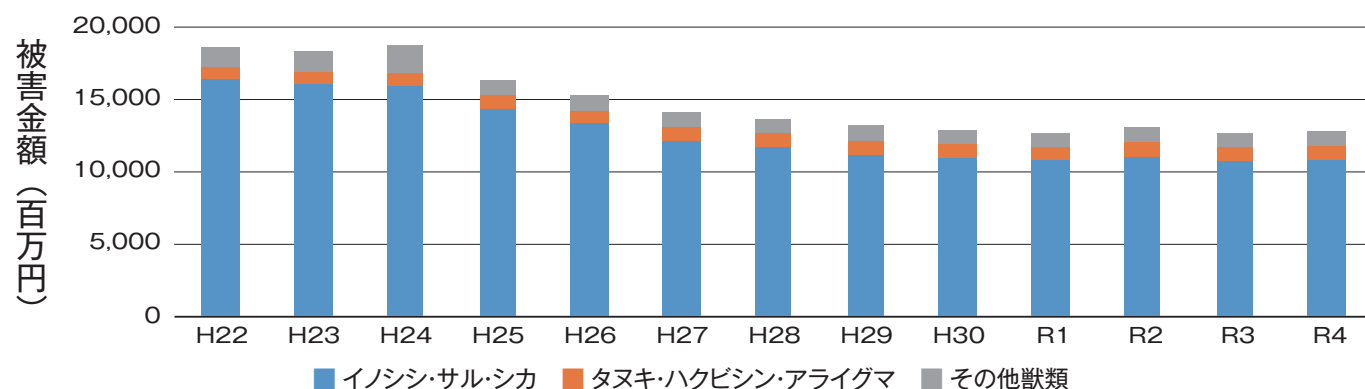
1-1 中型獣類の被害対策の考え方

中型獣類が定着し増加する原因は食べ物と休息場所が揃うことである。豊富な食べ物と安全な休息場所があれば安心して子育てもできる。増加の原因を取り除いていかなければ対策は進まない。生産者の目的である収穫と収入を守るためには「食べさせない」「安心できない」環境づくりを優先して行うことが求められる。捕獲も重要な対策であるが優先順位は低くなる。農作物に依存している個体は、被害管理として捕獲していかなければならないが捕獲だけに固執するのは危険である。農地が餌場となり人里や市街地が休息場所になっている現状を変えずに捕獲に頼った対策は、増加の手助けをしながら捕獲で減らそうとしているようなものである。

対策の成功は中型獣類に関する「正しい事実」と「正しい技術」を知ることから始まる。最終的な目的は「持続的な農業の発展」と「安心、安全な暮らし」であり、時とともに変化を続ける中型獣類の暮らしや行動を理解した上で、適切な対策を選択する必要がある。

1-2 データで見る獣類による被害の現状

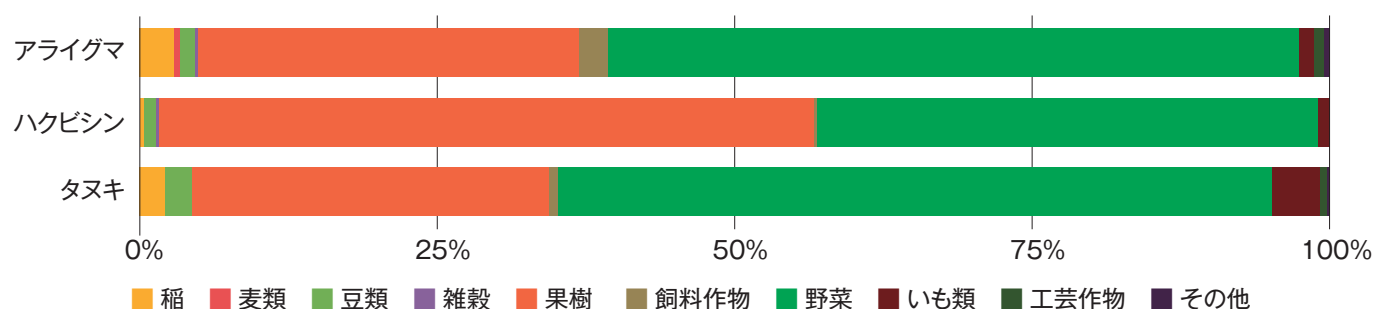
図1-1 獣類による農作物被害金額の推移



(注) 1.都道府県の報告による(都道府県は、市町村からの報告を基に把握を行っている)。

データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

図1-2 中型獣類による作物別被害金額の割合(令和4年度)



(注) 1.都道府県の報告による(都道府県は、市町村からの報告を基に把握を行っている)。

データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)